

### <エムディ先生の紹介>

エムディは、愛着理論で有名なジョン・ボウルビーJohn Bowlby 博士と同時代に活躍し、「3か月微笑」「1歳半のNo!」の現象を発見したコロラド大学教授ルネ・スピッツ Rene Spitz 博士\*の直弟子です。

スピッツは、もし乳児が依存対象から切り離されたままでいると、発達が歪み止まり、「愛情剥奪症候群」や「依存的抑うつ」などの病態、さらに死に至ることがあることを実証しました。これは生物学的な脳発達には養育環境の応答性が不可欠であることの証明であり、今トピックとなっている遺伝—環境相互作用研究の端緒となる研究です。

エムディはスピッツの研究を継承し、生態行動学的観察と精神分析理論を用いて、乳児が母親の「情緒応答性」を得ながら、人間存在の中心となる「情動的中核自己 affective core of self」を形成していくプロセスについて研究しました。また「REV理論」を提唱し、子どもの心の発達には、**R=Reciprocity**（互惠性）**E=Empathy**（共感性）**V=Value**（価値）が大きな影響を及ぼす、ということを訴えました。

会長、渡辺久子は、エムディが1984年北海道大学教授三宅和夫先生との愛着理論の共同研究のため来日した際、出会い、その後1986年第3回WAIMHストックホルム大会に参加し、戦後の高度成長による日本社会の工業化がもたらした、家族機能不全と地域社会の崩壊から生じた累積的なトラウマを被った子どもを乳幼児期体験からやりなおす再愛着療法が有効であることを発表しました。

そのご縁があり、このたびの来日が実現しました。

またエムディとジョイ・オソフスキーJoy Osofsky による表情認知を介した母親の情緒応答性の研究『I FEEL Pictures』では、慶応義塾大学小此木啓博士との共同研究もあり、日本とのつながりは深いと言えます。

エムディは、世界乳幼児精神保健学会（WAIMH）の創設者の一人であり、また精神科医や精神分析医として、長年にわたり国際児童精神医学会、国際精神分析学会で活躍し、新しい科学的知見をもたらしており、乳幼児精神医学と精神分析の橋渡しに大きく貢献した研究者・臨床家です。

また、親日家として、日本のいじめ、自殺、無気力、不登校、引きこもりの増加にもいち早く関心を示しています。現代の日本の子どもたちが持つ多様化し複雑化する問題の本質を考える上で、エムディの乳幼児精神保健を基盤とするたくさんの知見は大変役立つと思います。

幅広く乳幼児、学童、思春期の子どもらに直接かかわる保育士、保健師、教員、また乳児院や児童養護施設のスタッフ、児童相談所職員、小児科医、産婦人科医、精神科医などの教育・福祉・医療の現場の方々だけでなく、未来の社会をになう子どもたちの政策づくりにたずさわる政治や行政関係者、また警察、裁判所などの司法関係者の方々のご参加をお勧めします。

### <アン・レヴィ先生の紹介>

カナダマニトバ州生まれ、シンシナティ大学、テキサス医科大学精神科助教授、ローガンメンタルヘルスセンター、を経て2002年からコロラド大学精神医学科臨床医学教室教授を務めました。

長期的な個別心理療法、家族およびグループ治療、アルコール中毒患者、感情障害患者への治療など、様々な臨床のほか、医学部で学生への個人訓練、性的カウンセリング等を行いました。2018年からは、デンバーの精神分析学会総長として米国精神分析協会執行理事会にも参加し、長年、精神分析界に貢献しています。

### 略歴 ロバート・エムディ博士 Robert N. Emde

現在コロラド大学医学部精神科名誉教授。以下の分野で 300 以上の論文を出版：早期の社会的情緒的発達、睡眠研究、乳幼児精神保健、診断分類、早期のモラル発達、乳幼児期の早期介入評価、精神分析、行動遺伝学、研究指導演法。ダートマス大学卒業後、コロンビア医科大学を卒業（M.D.1960）し、コロラド大学医学部で精神科と精神分析研修を終了した。その後同大学で教鞭をとる。4カ所の国際多職種研究組織の長を務め、3か所の学術雑誌編集長、副編集長を歴任した。人生早期の発達研究プログラムについて、大勢の研究者や NIH 常勤科学者を指導し、膨大な博士号取得者と科学賞受賞者を輩出し、そのほとんどは現在大学の要職で活躍している。米国外では世界 23 カ国で講演し、世界乳幼児精神保健学会賞、米国精神分析学会賞、コロラド州精神医学協会賞、コロラド州乳幼児精神保健学会賞を受賞。また世界乳幼児精神保健学会名誉会長、フランクフルトのジグムント・フロイト研究所名誉会員、およびエリクソン研究所より人文名誉博士号を授与された。

定年後は悠々自適の生活を送りつつ、執筆、講演を行い、諸学会理事会顧問を務め、コロラド公衆衛生院アメリカンインディアン・アラスカ土着民族センターで、早期幼児期介入プロジェクトを指導する。また発達生物学、乳幼児精神保健、精神分析の研究者の指導も行う。現在は国際精神分析協会リサーチ訓練プログラム部の副部長を務める。

### 略歴 メアリ・アン・レヴィ博士 Mary Ann Levy

コロラド大学医学部精神科臨床教授のレヴィ博士は、開業精神分析家および児童・思春期・成人精神療法家の仕事を退いた後、精神分析・精神療法の教育および学会活動を続けている。デンバー精神分析協会長を歴任し、デンバー精神分析研究所の訓練分析医およびスーパーバイザーとして人望が厚く、優れた精神科研修指導医および精神分析家候補生スーパーバイザーに与えられる賞を受賞している。個人および地域社会におけるトラウマについての業績は特記すべきである。特にデンバーの学校銃乱射事件という大事件に際し、急性期メンタルヘルスサービス組織の立ち上げに貢献した。学問的研究分野には、女性についての精神分析的研究、逆転移、トラウマストレスの治療と長期的影響などが含まれる。

レヴィ博士はカナダ、マニトバ州ウイニペグで生まれ、1964 年にマニトバ大学医学部で医学士を取得。次いでシンシナチ大学で精神医学と児童精神医学を研修した。その後デンバー精神分析研究所で精神分析の訓練を受けた。その後サンアントニオのテキサス大学で助教授を務めながら、地域精神医療、病院精神医療に取り組み、その後デンバーに移住し開業した。